

ニーズ・シーズのマッチングの体制について

平成 28 年 4 月 18 日

原子力損害賠償・廃炉等支援機構

1. NDFによるマッチング促進の取組み

NDFは、以下の取組などを通じ、有望なシーズを応用・実用段階の研究開発や現場適用に繋げていくために積極的に取り組んでいく。

- 課題やニーズの体系化と大学・研究機関等への提示
- ニーズにマッチする有望な技術の抽出
- 関係機関が行うシーズ探索への協力と優先順位を踏まえたNDFでのシーズ探索
- 廃止措置に関する海外事例分析によるニーズ・シーズの把握
- 情報ポータルサイトを活用した情報発信・共有

また、NDFは、下記2. に示すJAEAを中心として着手している「基礎・基盤研究全体マップ」の作成、シーズの探索活動、潜在ニーズの抽出など、「廃炉基盤研究プラットフォーム」の活動に参加し、広範な分野の研究シーズを探索して、ニーズにマッチする有望な技術を抽出していく取組に協力していく。

これらの取組を進めていく上で、NDFは、福島第一原子力発電所の廃炉に向けて戦略的かつ優先的に取組むべき更なる研究開発課題・ニーズを見出し、評価・優先順位付けを行うために、少数の専門家からなるタスクフォースを設ける。本タスクフォースは、JAEAの代表を含む数名の専門家に加えてニーズを担う東京電力の専門家の参加を得て高度かつ戦略的な技術検討を行うものであり、これらの検討結果については廃炉研究開発連携会議に適時に報告し、具体的な提言を行っていく。

2. 廃炉研究に関するニーズ・シーズの整理（JAEAを中心とした取組）

JAEAは、昨年度に「英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業」で採択された7機関とともに「廃炉基盤研究プラットフォーム」を立ち上げ、ここでの活動の一つとして「基礎・基盤研究全体マップ」の作成をミッションとしている。

具体的には、

- JAEAが中心となって、研究実施者側からの視点に基づく研究マップを作成（大学等の有するシーズをマップに適宜追加）

- 顕在的ニーズ（応用研究、実用化を行っているIRIDや東京電力のニーズ）のマップへの取り込み

○潜在的ニーズ（認知できていないニーズ）（※）のマップへの取り込みを当面の実施事項としている。

※東京大学が中心となって当該ニーズ抽出を実施中

以上